

# ロシア 東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル 郵便番号104 電話 (3551) 6215~9  
ロシア東欧経済研究所 [購読料・送料共前納 1ヶ月-1,500円 1ヶ年-18,000円]

1996年(平成8年)4月15日 No. 1020

## 目次

担保入札を焦点に転機を迎えるロシアの民営化	
一ノリリスクニッケルをめぐる動きを中心に一	坂口泉 1
シリーズ ロシア大統領選を追う(7)	9
キーパーソン(ロシア内閣における副首相の管轄)	9
統計速報(1996年1~2月の日本の対CIS・東欧主要国貿易)	10
CIS諸国通貨の最新為替レート	10
新刊案内(『ロシア極東データブック』刊行のお知らせ)	11

## 担保入札を焦点に転機を迎えるロシアの民営化

一ノリリスクニッケルをめぐる動きを中心に一

はじめに ロシアでは、昨年末の「担保入札」の後、民営化に対する批判の声がいかに高まった印象を受ける。確かに、担保入札には様々なマイナス面がある。しかし筆者は、この民営化方式は今後のロシアの経済再建の推進力となる可能性を秘めていると見る。つまり、担保入札は「両刃の剣」の性格をもち、利用方法を誤らなければ、大きなプラスを生み出すことが可能であると考えます。

すでに本誌2月5日号(No. 1013)で、石油大手ユコスの株を対象とした担保入札のいきさつと、それに勝利したメナテップ銀行について吟味した。本稿ではさらに分析を進めて、担保入札は経済再建の推進力となりうるという視点から、担保入札後の民営化をめぐる動きと、今後の民営化の方向性について検討していきたい。とくに、軽金属部門の重要企業ノリリスクニッケルと、その経営権掌握をねらうオネクシム銀行を取り上げることとする。

不備が多かった担保入札 1995年末、政府は大企業の国家保有株を担保に民間企業(主として商業銀行)から融資を受けることとなった。融資権は入札方式(以下、この入札のことを「担保入札」と称する)で争われ、最も有利な条件を提示した民間企業が、融資権を獲得